とかち新聞
主筆　松山明
(発行所)北海道足寄郡足寄町　とかち新聞社　電話1351番
本紙購読料　1部35円　1カ月100円　1カ年前納1,000円

三町いつせいに新予算議会ひらく

昭和四十五年度の新予算審議を中心とする定例第一回の町議会がいつせいに開幕しました。

足寄は十二日に招集し会期を十日間として、この日は大滝議長をはじめ各常任委員長の報告があって小林町長の行政報告につづいて新津教育委員長とともに新年度行政執行方針の説明があり、これに対する質疑がおこなわれたあと、ことしから四月、七月、十月、一月の四回にわたって一議会だより」を発行して全戸に配布することにして広報委員に斉藤昇、宮口政雄、吉田吉之助、鳴海一郎、矢野寛一、香川博臣、大野新太郎の七議員を互選しました。

二日目の十三日は一般質問、十四、五日は休会して十六日から議案審議に入りました。

この日、報酬等審議会（士田今吉会長）の答申にもとずいて議員報酬を四月一日から議長三万四千円、副議長二万八千円、議員二万四千円への引き上げ案は原案どおりに議決されたものの、町長二十万円、助役十四万五千円、収入役十二万円、教育長十一万円への引き上げ額には異議はないが昨年九月にさかのぼっての支給はケシカランとばかりに修正議決。

審議会にしても理事者にしても、ただほかの町村もさかのぼって支給しているからというだけの安易な提案に対してビシヤリと歯止めをかけたもの。

新年度一般会計は九億三千九百万円の大会に乗った小林町政しめくくりの感りがある。

陸別も十二日に綱会し新年度一般会計は九億三百万円の大会に乗った小林町政しめくくりの感りがある。

陸別も十二日に綱会しこの日は補正予算などを審議して千葉町長の任期最終の新年度執行方針は二日目の十三日に迫べましたが、関願の焦点は医師不足で指名の成人病センターに委託したものの、またふり出しに戻った町立厚生病院の再建策やら、二十年ぶりの異常渇水による断水さわぎを休会に入り十九日に再開して二日目に閉会の予定です。

四十四年度の最終予算が七億七千万円なのに対して新予算が七億二千万円ではあと二カ月後に町長選挙があってだれが町長の座を占めるかわからないのに、すでに政策予算をもりこんだのではないかとのヤリトリもありました。

改進前の骨格予算が七億円をこえたのは、経常費のほかに継続工事費と補助、償還金の繰越分も計上したためだそうで、選挙をまたずに第二次水元町政への自信？のほどを示したような格好ですが、過疎対策の質問について水元町長は『そうしたいつの考えるべきこと…』と答弁をかわしていました。

『広域消防の政令指定について』を議案として提出したのは本別だけで、この日まだそろ本別は十年も前から消防警を設置して整備につとめてきたのに、未だに消防署をもたない足寄に本部をおくのはなつとくできないとの不満の議論がむしかえされて川議長は『消防近代化のために止むを得ない、そういうことになるが、本別はとり残されて…』となだめ役にまわつてどうにか議決。

漁業権で協定

四年後は共同申請へ

足寄と本別の両町にまたがるダムの漁業権について昨年いらいゴタゴタをつづけていましたが、このほど池田町長と十勝支庁長の調停あっせんによってどうにか片がついて12日の足寄町議会に報告されましたが－

協定書

足寄町（以下甲という）と本別町（以下乙という）との間において足寄湖及び仙美黒ダム貯水池に設定された内水面二六号及び内水第二七号の内水面区画漁業権（免許人足寄町）について、下記事項のとおり協議が成立したのでここに後日の証とするため本書を作成し、甲乙記名調印のうえ夫々各一通を保有するものとする。

なお本協定の履行に際しては、甲乙天々誠意と協調をもってこれにあたり、相互の利益を確保するため努力するものとする。

記

一、昭和四十八年十二月三十一日までの間は甲が漁業権を有することを確認する

二、昭和四十九年一月一日の内水面区画漁業権切換時に際しては、甲乙協議のうえ設立する法人たる組合に、この免許が受けられるよう申請手続きを取りはこぶものとする

三、現に免許を持つ甲は現在の管理組合に乙に在住する希望者を加入させることについて異議はない

四、二の漁業権切換時までに組合を設立するため組合設立推進委員を設置するものとする

五、甲乙は四の委員会の申請に基づき増資無事業に要する経費を必要に応じて負担するものとする

六、本協定履行に際して必要な事項は甲乙協議のうえ別に定める

昭和四十五年三月十日

甲　足寄町長小林弘道

乙　本別町長水元孝夫

立会人　十勝支庁長　山田光男

以上

足寄が〝降服〟した

町議会での論議はつぎのとおり。

小林町長　内水面漁業権について本別町側から異議があって支庁長のあっせんがあり、三月十日に支庁長と陸別町側からのあっせんに応ずることにした、五年後の更新時に本別町と共同で申請することにした、地元三町浄化センターや消防事務組合のこともあるのであっせんをうけ入れた

斉藤祐一議員　すでに地域に漁業組合ができているが組合をどう指導するか、どう調整するか

神本三也議員　協定を結んでから議会に報告する町長の姿勢についてきたい

本別町は道に対して異議を申し入れたが、足寄町には手落ちはない、道の指導というが上から自治体が注文をつけられてウルサイから協定を結んだのか

小林町長　申し合せの漁業組合で、運営においてあと四年間変更はない　五年後の切り換え時に本別町の地帯の方に入ってもらっても結構だということで、こちらが本別を出し抜いたり裏をかいたりしたことはなかったのに、この問題はつづいて、市政干渉をうけるのかといわれるが、卒直についてお干渉されるものでなく支庁長があっせんに入っておりいつまでも両町間でかんを得ている

権利放棄でないか

斉藤議員　神本氏の発言で道として突っぱるわけにはゆかないようだった

神本議員　決める前ならよい、決めてからでは役ゆずれない

損失は町の責任で

斉藤議員　協定書では五年後に改めて契約としているが、現在の組合が計画的に事業をすすめて投資もしているがこの補償はどうなるのか、町長は協定書を結んだ経緯でどう決めるのか

小林町長　徘魚の放流その他町費で補助してきたが組合員にも応分の投資をお願いしてきた、根本的には本別側の出方いかんで、希望者がおればよいがいるかいないかで、不利にならないように本別側に出資を割り当て損失を招かないように話し合っており、責任転嫁の考えはない、四年後に一部権利放棄的にはなるが支持する人々は多いということで、地区労一部社会党というピッタリの関係などはそれを証明しています。

（五）

しかしながら労働運動や農民運動や現状が緊迫の度を深めるとしてもそれは議会制民主主義の否定につながることであり、民主政治はテマヒマかかるとしても、それがエスカレートすれば全学連的過激暴行動になってしまうことで、それ

統合でまた消える四校

負担のかかる廃校オンパレード

足寄町の平和小学校が十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八日に、茂喜登牛小学校が二十三日に、上ラワン小学校が二十四日、長野小学校が二十五日にそれぞれ閉校式をおこなつて廃校となり児童は四月の新学期からそれぞれ近くの小学校へ吸収統合され、先生方はいずれも他校へ転出して地域の文化センターは過疎化の波にのまれて消え去るという廃校オンパレードの実態。

過疎化に歴史は保てず

平和小学校（山川三郎校長）は明治三十九年に本別村足寄太簡易教育所として発足が三名という貧乏教授先生が三名なみの格好となつて独立校した西足寄村の平和、昭和上足寄太の三部落の小学校として六十四年の歴史をへながら新学期からの児童数はわずかに十五名ということで、教育委員会が打ち出していた学校統合の計画より一年早く、末練を残しながらもマイクロバスで足寄市街の東小学校へ。

上ラワン小学校（谷谷良三校長）も古く大正四年に私立上ラワン教育所としてスタートいらい幾多の人材を育ててきたものの、これまた児童数は十七名に激減して一本立ちは無理となり奥地ですでに廃校となつた旧富士見小学校からのスタールルバスに便乗してラワン小学校へ。

長野小学校（木村嘉孝校長）は大正十一年にラワン小学校長野特別教授場として発足、もともと小部落の小規模学校として存続してきたものの、児童数十名に満たず、児童、生徒場にともなつて校舎を永久建築に建てかえ体育館も新設、すぐそばに開拓診療所を設けるほどになつたものの、離農者の続出によつて順次下降線をたどり、昨年は中学校は芽登の西中学校へマイクロバス通学で統合、四月から小学校も二十八名をさらにマイクロバスを追加増入して芽登小学校へ統合。

バス会社なみの陣容で

この学校統合は、教育委員会の計画にもとずく無理強いという形でなく、むしろ各地域の地元からの要望によつて計画をうわまわつてテムポが早く実現していることで、町村として日本一広面積の過疎化による人口減によつてスタールバスも他校へ転出して地域の文化、なにも地元に学校がなくても、むしろ大規模学校へ楽に車で通学して学力が向上するならプラスであり、すくなくなつた世帯数で学校を維持するのも容易でないということもあつて統合に賛成しているようで、町教委の計画は着々とすすんで、あと残つているのは糟牛、上幌牛、中足寄、旭が丘、上利別、大誉地などの難しい地区だけとなりました。

統合による町内のスクールバス（マイクロを含む）路線は

△富士見～ラワン
△上大誉地～大誉地
△茂足寄～ラワン
△鳥取～上足寄
△オンネトー～上足寄
△茂喜登牛～芽登
△愛冠・鷲府～足寄
△白糸～上利別
△平和～足寄
△長野～ラワン

というようにバス会社なみに四通八達することになります。

学校を建てた借金は残る

このようにして学校統合によつて廃校になれば、これまで学校があることによつて一校あたり三百万円なり五百万円なりの地方交付制が国から交付されていたのがなくなり（ただし暫定的に三年間だけ交付）収入減となる上に、スクールバスを購入しなければならない、運転手の人件費をみなければならない、ガソリン代もかかれば修理代をみなければならないし、バスは三年も使用すれば更新しなければならないので校舎を使うよりも高くついて町の出費は多くなる一方のところへもつてきて、これまでへき地のすみずみまで毎年建築してきた校舎や体育館や教員住宅の借金は返してゆかなければならないということで、この学校統合は単級・複式援護酪農消の適正規模による学力向上のためとはいいながら町村財政にとつては大きな荷物であるとともに過疎化をさらに深刻化させる要因となるので地方自治体への二重苦、三重苦の重圧となりますが、こうした関係地域では、さつそく合理化反対のために国鉄本社へ陳情におよんだ最近のはなし。

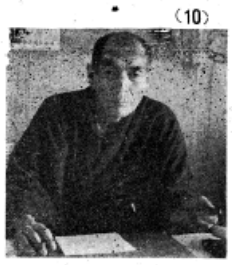
○…一行は道東遊出の中川一郎大蔵政務次官の案内で国鉄本社を訪れたために磯崎総裁をはじめ首脳陣がズラリと勢揃いしてはなしをきいてくれたそうで、一行は「赤字で困るからという理由で無人駅化をすすめるというが、さらに赤字をふやすばかりの白糠線や北十勝線の新線に金をかけるのはなぜか、そのために我々が犠牲になるのはなつとくできない」とつめよつたところ中川次官をチラリとみやりながら磯崎総裁は「なにしろ先生方からの要望が強いので…」と政治路線は有難迷惑といつた表情。

○…これに対して中川次官もさるもので「そうだ、そうだ」と相づちをうつておいて「北十勝線を通したところでだれが利用するのか、いつたい乗る人があるのか熊でも乗せるのか」と北十勝線廃止問題を一蹴。なにしろ北十勝線期成会の会長は本名武代議士であつて、日ごろ衣鉢のあいだがらの相手をこのさいとばかりに間接攻撃の形。

○…それでも広尾町出身の中川次官は「北十勝線よりしてやれる」とのこと。

私の見た／足寄の55年

砂山重蔵（10）



ブラブラ出てきた熊公

大正十二年の三月末ころでした。上足寄鳥取の越管駅道所より約四キロの川上さんの川向いで故長尾兼助さん（現帯広市議会議長長尾宏氏の父君）が造材をしていました。主任山頭はさきほど亡くなつた足寄町南区の斉藤亀蔵さん（花鳥車経営者斉藤武志氏の父君）でした。

いくら山奥でも三月の末ともなれば、谷々の雪はまだとけないとしても、東南の斜面はまばらに雪を残して枯草の下から新芽の香りをただよわしています。

穴熊の習性として、北側の斜面に穴をもつていればいち早く穴から出る、春がくれば根雪の雪のとけるのを待つて向いの山をみる、日あたりのよい南側は早くも雪がとけているところがみえるでしょう。もう大丈夫と思つて出てみると、自分の穴の附近はまだ真つ白一仕方がないし腹ペコ。ブラブラと日あたりのよいところへ出てきたのは明け四才の雌熊で、造材部では切り上げどきで馬五頭、人夫十五人くらいで、雪どけ水を利用して流送する準備のため川岸へ集材していました。

沢のなかのカタ雪をわたりながら熊はブラブラと出てきました。なんだか馬がさわぐので只ごとではないと思つていると、沢の方で犬がほえたので行つてみると、驚いたことには小型の熊が「お前らなにをさわいでいるのか」といつた顔つきでキョトンとみていましたが、みながあまりさわぐのでやがてフラフラと沢の奥へ入つてゆきました。

つぎの朝いつてみると、丸太の上の昼食の残りのシオマスの皮までキレイに食べていつた跡があるので、こんどはワザと喰べ残しをしておいてみると、やはりキレイに食べていました。

マツチの頭でタマ作り

そうしたことが毎日つづくと、熊は段々と平気になつたのか、みなが働いている五〇㍍くらい離れた日あたりのよいところで昼寝をするようになりました。

大勢いるからみなは平気だつたが、熊が段々元気になつて馬にでもかかれたのがなくなり（ただし暫定的に三年間だけ交付）収入減となる上に、スクールバスを購入しなければならない、運転手の人件費をみなければならない、ガソリン代もかかれば修理代をみなければならないし、バスは三年も使用すれば更新しなければならないので校舎を使うよりも高くついて町の出費は多くなる一方のところへもつてきて、これまでへき地のすみずみまで毎年建築してきた校舎や体育館や教員住宅の借金は返してゆかなければならないということで、この学校統合は単級・複式援護酪農消の適正規模による学力向上のためとはいいながら町村財政にとつては大きな荷物であるとともに過疎化をさらに深刻化させる要因となるので地方自治体への二重苦、三重苦の重圧となりますが、こうした関係地域では、さつそく合理化反対のために国鉄本社へ陳情におよんだ最近のはなし。

○…一行は道東遊出の中川一郎大蔵政務次官の案内で国鉄本社を訪れたために磯崎総裁をはじめ首脳陣がズラリと勢揃いしてはなしをきいてくれたそうで、一行は「赤字で困るからという理由で無人駅化をすすめるというが、さらに赤字をふやすばかりの白糠線や北十勝線の新線に金をかけるのはなぜか、そのために我々が犠牲になるのはなつとくできない」とつめよつたところ中川次官をチラリとみやりながら磯崎総裁は「なにしろ先生方からの要望が強いので…」と政治路線は有難迷惑といつた表情。

○…これに対して中川次官もさるもので「そうだ、そうだ」と相づちをうつておいて「北十勝線を通したところでだれが利用するのか、いつたい乗る人があるのか熊でも乗せるのか」と北十勝線廃止問題を一蹴。なにしろ北十勝線期成会の会長は本名武代議士であつて、日ごろ衣鉢のあいだがらの相手をこのさいとばかりに間接攻撃の形。

○…それでも広尾町出身の中川次官は「北十勝線よりしてやれる」とのこと。

北十勝線に誰が乗る？

ミ中川政務次官のタンカミ

馬小屋をたたく

陸別町の新年度予算は十二日からの定例町議会で審議中ですが、その予算書のなかから主なものをひろつてみました。

農業振興に重点

陸別町の場その場のメクラ行政をつづけてきた国の施策のツケは今さらいうまでもなく、ワケはせともいえましょう。

陸別町の新予算

▲ねたきり老人家庭補助、寝台補助　二三万円
▲ねたきり老人家庭奉仕員　三〇万円
▲小利別道開堆造成工場　三四万円
▲浜北三町浄化センター組合負担金　六四六万円
▲氣地道路新設一七九万円
▲氣地造成　四三万円
▲ゴミ処理費一二四七万円
▲労働文化祭等　一八五万円
▲アングルドーザ購入　五五七万円
▲授農協力会補助　七万円
▲農業後継者養成一五万円
▲農業青年研修費　六万円
▲農家若妻会研修費二万円
▲農業災害資金利子補給　一二二万円
▲でん粉原料農推進九五万円
▲農業改良普及事業　三三万円
▲農業振興基金積立金　一五〇万円
▲乳牛検定組合補助八万円
▲飼料作物増産対策補助　二二五万円
▲農業振興基金繰入　四一四万円
▲畜産センター四一四万円
▲トラクター事業　二二六万円
▲牧草取納庫新設二七万円
▲豊免農道修備四八〇万円
▲ポントマム川床上げ工事　一〇〇万円
▲斗満土地改良　三四万円
▲農業構造改善事業費　一、七三六万円
▲商工会補助　一三〇万円
▲保証協会貸付二〇〇万円
▲道々苫務小利別線測量委記　六二万円
▲東二条通り側溝歩道　六二万円
▲東一条仲通り少道側溝　五二〇万円
▲栄町側溝新設一六九万円
▲通学機ガードレール設置　六八万円
▲道々上足寄線御溝伏設替　一〇万円
▲元町水道伏設替九九万円
▲珍橋橋脚補強工事　一〇一万円
▲四年橋架替工事　三六万円
▲藻塩三号橋架替工事　六五万円
▲東一条栄橋架替工事　二三万円
▲ベンケタンベツ原野線改良工事　五五七万円
▲○町青少年広場工事費　一三八万円
▲小利別消防会館隣上造作工事　三〇万円
▲防火井戸改修　三〇万円
▲新町消火栓新設五七万円
▲へき地教員住宅建設　三七〇万円
▲教員住宅新築六戸　九〇〇万円
▲小利別小排水溝二六万円
▲陸別小学校改築設計委託料　三〇〇万円
▲陸別中学校内部整備費
▲青少年の森整備　四万円
▲町民グラウンド排水工事　五二万円
▲同　照明施設　三七万円
▲簡易プール新設工事　三八四万円

新量 表替 中古畳 ふすま張替
二段ベッド 敷物一式
小林畳店
小林幸三郎
足寄町大通り山口整骨院前　T四二八

有限会社 協栄建設
足寄町西区　T五六九
佐藤善一　山上輝夫　小林直道　中山源吾

不動産についての御相談は
調査 売買 あつせん 管理 分譲 代行 登記 損害保険 代理まで
岡和、興和火災保険代理店
北海道知事許十26
足寄不動産事務所
足寄町本通り三丁目　T二四五

株式会社 前田呉服店
足寄駅前商店街　電話二二番
新入学用品が更に新しく入荷して皆様により御満足して頂けるように取り揃えました
御用命下さい
「足中」制定女子服も各サイズ入荷別注も承つて居ります
混み合わぬ内に御注文下さい

浴槽 ガス ガス器具
日立ポリ浴槽 埋め込み式 脚支柱式 大中小の各種あります
日立風呂釜 ガス漏れから火の心配がなくなり、安全対策がほどこされた新製品！
プロパンガス販売　日立化成特約店
武藤桶店　足寄町商1　電話437
風呂桶のご注文は丈夫で香りの高いヒノキ、サワラ杉

御卒業 御進学セール（実施中）
ご卒業ご進学記念に時計をどうぞ！
お買い上げの方に記念品 粗品 ギフト券を進呈いたします
期間 二月十五日～四月三十日
時計 眼鏡業 カラー DPE
ミヤケ時計店
足寄町三笠通り　電話一〇七番

家具と新建材販売！
既製家具から注文建具、サツシ
新築・改築に御相談下さい！
桜井建具店
足寄町北5区　T 362
建具製作部工場　西5区